

第3回経営ビジョン策定検討部会 議事録

日 時 平成29年6月13日（火） 午後3時から午後5時まで

場 所 京都市上下水道局本庁舎 5階第1会議室

出席者（本市職員を除き五十音順，敬称略）

1 委員

神子 直之 立命館大学教授（理工学部）
小林 千春 同志社大学教授（経済学部）
小林 由香 税理士
中嶋 節子 京都大学教授（大学院人間・環境研究科）
西村 文武 京都大学准教授（大学院工学研究科）
江渕 史明 京都市上下水道局総務部経営ビジョン策定・防災担当部長

2 京都市上下水道局

総務部経営政策担当部長，総務部総務課長，総務部経営企画課長，
総務部職員課人材育成担当課長，総務部経理課長，
総務部お客さまサービス推進室業務管理担当課長，技術監理室監理課長，
技術監理室監理課担当課長，水道部管理課担当課長，下水道部計画課長，
事務局（総務部経営企画課）

次 第

1 開 会

- (1) 出席者確認
- (2) 進行の確認，会議の公開について

2 議 題

次期経営ビジョンにおける事業等の方向性について

3 閉 会

内 容（議題に係る主な意見）

<全体に係る意見>

- **資料5**の4ページ以降について，「2 今後の方針・目標」と「3 主な事業等（取組項目）」が同じような表現になっているものが散見され，整理されていないように感じる。「2 今後の方針・目標」については，一部文章が長くて分かりにくいところもあるので，簡潔に表現し，事業等と切り分けた方がよいと思う。「4 効果」について，もっと詳細に記載した方がよいのではないか。また，各事業については，効果の発現を目標としているので，「効果」の

項目については3番目にもってくるという考え方もあるのではないかな。

- 効果の大小は様々であり、それらを表現しようとする事務局案のような書き方にならざるを得ない面もあるかと思う。
- 経営ビジョンは、公（市民）に対するものであるし、一方で内部（局内）に対するものであると考えている。公に対する表現としては、簡潔でインパクトのあるものが良いと思うが、一方、内部向けとしてはそうではないように思う。市民向けには、現行ビジョンのように概要版冊子を作成し、概要版では簡潔な表現を用いるなどの使い分けをしてはどうか。また、市民向けとしては、事務局案はボリュームが大きいので、市民の関心が高い分野、例えば料金や水質、災害時にどうなるのか等（安心、安全に繋がること）を強調するなどの工夫をしてもよいと思う。
- 経営ビジョンの対象は特化されないのではないかな。全ての人に同じように理解を求めるのは不可能であると考え。専門家が見て十分な内容になっている必要もあれば、市民にとって分かりやすいものである必要もある。
- 経営ビジョンについては、事務局案をベースに作成していけばいいと思っている。現行のビジョンについては、例えば「京の上下水道」の冊子の中でもコンパクトにまとめているが、やや難しい内容となっているように思う。

また、現在も地下鉄等でイメージ広告を出しているが、市民の大半は蛇口から出てくる水道水ぐらいでしか上下水道局との接点がないと認識しているので、それ以外の面、例えば危機管理や環境対策について、ポイントを絞って打ち出していくことも必要かと思う。

- 設備投資に係る「3 主な事業等（取組項目）」の文章中、「優先的に」や「順位をつけて」という趣旨の言葉が並んでいるが、今後、大事なところから順に投資を行うという考えは重要なので、「2 今後の方針・目標」でも同趣旨の内容を強調した方がよいと思う。また、費用対効果についても触れた方がよいと感じた。
- 上下水道局のビジョンと、京都市の他の施策との関係について触れてはどうか。例えば、岡崎地域の活性化について、京都市上下水道局の果たす役割は大きいと思っており、全市的な施策の中での上下水道局の関わりを示すことで、上下水道局の役割を理解してもらえと思う。

<視点①「京の水をきずき みらいへつなぐ」に係る意見>

（方針③「水をきれいにする」）

- 「1 背景・課題」と「4 効果」に「景観」という言葉が出てくるが、水をきれいにすることが美しい景観に結びつくという点がよく理解できない。「景観」という言葉に対する印象は人それぞれで異なるため、大きな意味を持たないのであれば外してもよいのではないかな。
- 京都市は琵琶湖・淀川水系の中流域に位置している点を踏まえ、下流域のことを考慮している点をもっと強調した方がよい。

（方針④「強いまちをつくる（1）危機管理対策の強化」）

- 自助・共助・公助という考え方は大事だが、「飲料水の備蓄率」という自助に係る指標のほ

かに、上下水道局として危機管理をどう進めていくのかという指標もあった方がよい。

また、太秦庁舎等のハード面について多く触れているが、ソフト面も重要であると考えるので、例えば、各種マニュアルの精緻化や停電時のシミュレーションの実施等、ソフト面の具体的な取組についても触れた方がよい。

- 災害が発生した際、市民としては具体的な行動をどうおこせばよいのかが問題となるので、取組についてももっと実践的な内容にした方がよいのではないかな。

(方針⑤「みらいを考える (1)新技術」)

- 「3 主な事業等」は簡潔で分かりやすくなっているが、「4 効果」について、もっと具体的に記載した方がよいのではないかな。

また、厳しい経営環境の中にあっては、新たな技術を導入することによる運用コストの削減や耐用年数を伸ばすなどの効果についても注目する必要がある。事務局案では、「事業推進の効率化」と表現しているが、「費用対効果を向上させることにより、財務体質の強化につながる」のように具体的に記載することで、施策体系上の「視点」同士のつながりも見えてくるのではないかな。

- 新技術等の導入については、例えば、浄水場の一部の設備を活用して運転技術の開発を行ったり、日々得られる様々なデータを活用したり、上下水道局ならではのお金の掛からない方法ある。大事なのは、企業等の動向とうまくマッチングすることであると思う。
- 大学等研究機関との共同研究については、研究機関との人的交流を深め、日常的な情報交換が行われるような風土を醸成することで、活性化されるのではないかな。

<視点②「京の水でこころをはぐくむ」に係る意見>

(方針①「人とふれあう (2)広報・広聴」)

- 業務指標として認知度を挙げているが、認知度はポスター等を数多く掲載すれば上がるものであり、果たしてそれを業務指標として掲げることが適切なのか疑問がある。例えば、市民は安全性について関心があると思うので、それに関連したものを指標として掲げるなど検討してみてはどうか。
- 子育て世代への波及効果も見据え、子ども達を対象とした広報活動を展開する旨が記載されているが、子ども達に水道・下水道を学んでもらうことは大切だと思う一方で、それが子育て世代の満足度の向上につながるようにも思えないので、書き方を再度検討してみてはどうか。子育て世代にとって関心があるのは、安全性の面であると思う。それに関連して、鉛製給水管についても関心は高いと思うが、既に十分な取組を進めているようであれば、その点を記載した方がよいのではないかな。
- 「水道水・雨水の利活用推進」とあるが、表現に違和感がある。雨水は上下水道局がつくっているものではないので、水道水と雨水は分けて記載する方がよいと思う。
- 戦略的な広報・広聴活動の展開と言いつつも、様々な媒体を用いるなど、総花的な表現もある。また、「職員一人ひとりの広報パーソンとしての意識醸成」を掲げているが、気持ち(姿勢)としては理解できるが、事業として掲げることには違和感がある。

(方針②「まちをゆたかにする (1)文化」)

- 京都市の大きな特徴として、琵琶湖疏水が挙げられる。施策体系案の中でも、取組項目としては琵琶湖疏水について触れているが、京都市民にとって大きな財産である琵琶湖疏水の管理を上下水道局が行っていることは意外と知られていないので、もっと上の階層で打ち出してもよいと考えている。

また、琵琶湖疏水以外の文化面の取組として、まちなみや景観に係る内容に触れているが、もう少し探してみてほしいと思う。

<視点③「京の水をささえつづける」に係る意見>

(方針②「基盤をつくる」)

- 「1 背景・課題」で経営基盤を強くするための方策例が挙げられているが、いずれも発展段階にあるものなので、先進事例等をしっかりと研究し、いずれの方策を採用するのが適切なのかを判断していく必要があると思う。
- 建設事業に係る単価が上昇傾向を迎える中にあることは、調達コストをいかに抑えるかが重要となる。建設業界では材料調達や工事の適切なタイミングについては、本格的な検討を進めている。このような視点で、単純にコストを縮減するだけでなく、コストをマネジメントしていくという方向性も重要であると思う。
- 「3 主な事業等」に空き施設等について、「早期かつ集中的に商品化(売却・貸付等の準備)」という表現があるが、何でも売ったり貸したりという姿勢は適当ではない。オール京都市として利活用を検討する際には、施設マネジメント(資産マネジメント)の観点から売るものと売らないものを分けてほしい。
- 民間活力の導入が掲げられているが、業務等のすべてを委託することには賛成しかねる。例えば、浄水場の運転管理にしても、そのすべてを委託してしまい、上下水道局にはその内容を誰も理解・把握できていないという状況は好ましくない。

(以 上)